



ウェルビーイングな日々

no 12

- 以前、家人がふと思い出したように、学生時代に聴いたパイプオルガンの演奏について話をしていました。その音色が素晴らしかったこと、そして演奏されていたご高齢の女性の凛とした後ろ姿が美しかったと。幸運にも機会に恵まれ、約30年後に、同じパイプオルガンの演奏を聴くことができました。(演奏者は別の方でしたが) 莊厳で重厚な響きに、なぜか涙が溢れ、まさしく魂が震える感動を覚えました。
- 令和7年の夏に公開された長崎が舞台の映画では、第1次及び第2次世界大戦の戦火を乗り越えたオルガンで、エンディングの合唱曲の伴奏がされていました。素朴で、静かに語りかけてくるような優しい音色でした。
- そして、東京のある百貨店では、95年前に導入されたパイプオルガンが、今も来店客を楽しませています。土日に15分間、1日3回の演奏が行われているそうです。勿論、音色を維持するためにメンテナンスも行われています。
- 長い年月の間、社会情勢が変化する中で楽器を維持していくことは、決して容易ではなかったはずです。今日まで、多くの人々の努力によって受け継がれ、引き継がれてきたことが推察されます。
- 近年、ビデオテープなどの磁気テープの再生が難しくなると言われています。大切な記録をデジタル保存へと移行されている方も多いのではないでしょうか。また、多くの人が手軽に利用しているスマートフォンでの画像保存も、いろいろなアプリや方法があります。画像は子どもの成長や家族の歩み、周りの人たちとのいろいろな思い出が残る大切な記録です。家族や知人・友人で共有したいと思うものでしょう。目で確認できることで、誰もが同じ時間に戻り、その時の空気感を肌で感じができるツールです。
- 受け継ぐもの、引き継ぐものは、人それぞれです。特に職人の技、名人芸といった特別なものでなくとも、日常の営みが続していくこと自体が嬉しいものです。そして、残そうと特に意識しなくとも、家庭の中で自然と受け継がれていることがあります。各家庭ならではの、例えば、洗濯物の畳み方、調味料のメーカー、この季節になったら～をするという習慣、家族だけにしかわからない言い回しや暗黙のルールなど。ふと気づくと、自分も親と同じように行動していて、「あれっ」と苦笑することがあります。こういった、何気ない日常の断片が「ミャクミャク」と静かにつながっていく日々を重ねたいものです。

